

## 4 指導の展開例・ワークシート

幼稚園用 【P13～・P15】

小学校低学年（1・2年生）用 【P16～・P20～】

小学校中学年（3・4年生）用 【P23～・P27～】

小学校高学年（5・6年生）用 【P32～・P36～】

中学校用 【P38～・P42～】

### <指導のポイント>

- この資料を活用し、児童生徒の発達段階や学習経験、学校の立地条件や学区の地理的特徴に応じて、学校独自の指導となるように工夫することが大切です。
- 社会科や理科などの関連教科や学級活動、総合的な学習の時間等との関連を図り、より効果的に指導ができるよう、教科横断的、総合的に取り組んでください。
- この資料を参考に指導したことを生かして、実践的な避難訓練を実施することも必要です。

### 【ワークシートの例について】

- このワークシートは、それぞれの展開例で活用するために作成してあります。
- 一つの例として参考にして、児童生徒の学習経験等の実態に応じて使いやすく工夫を加えて、有効に活用してください。

## 1 幼稚園の目標

- 日常生活の場面で、危険な場所、危険な遊び方などが分かり、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付けることができるようにする。
- 災害時などの行動の仕方については、教職員や保護者の指示に従い行動できるようにするとともに、危険な状態を発見したときには教職員や保護者など近くの人に伝えることができるようにする。

## 2 関連する教科等の指導内容

- 【健康】
- 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動すること。
  - 安全に関する指導に当たっては、情緒の安定を図り、遊びを通して安全についての構えを身に付け、危険な場所や事物などが分かり、安全についての理解を深めるようにすること。また、交通安全の習慣を身に付けるようにするとともに、避難訓練などを通して、災害などの緊急時に適切な行動がとれるようにすること。

## 3 学習の流れ

事前指導	避難訓練	事後指導
地震、津波、風水害の際の避難行動のしかたを知る。	避難訓練を通して、災害時の身の守り方や行動のしかたを理解する。	避難訓練を活用して、安全についての理解を深めるとともに防災意識を高める。

## 4 学習の展開例

## 地震・津波・風水害に関する指導の展開例

## 幼稚園

- **ねらい** 非常ベル等の緊急合図を知るとともに、災害発生時の身の守り方がわかる。防災に対する意識を高める。
- **内容**
  - ・ 緊急の合図を知り、放送や教師の話を手静かに聞く。
  - ・ 自分の近くにいる教師のところに集まる。
  - ・ 教師の指示に従って、落ち着いて行動する。
  - ・ 避難の際の約束を守り、安全に避難する。  
『おちてこない・たおれてこない』所に身を寄せる安全行動。  
『おさない・かけない・しゃべらない・もどらない』の約束
  - ・ 地震等に関する絵本や紙芝居の読み聞かせを通して、防災意識を高める。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p style="text-align: center;">地震</p>	<p>● <b>地震が起きたら…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体を丸くして低い姿勢をとり、自分の身を守る。</li> <li>○ 室内で地震が起きた際の身の守り方(頭を守る、落下物のない保育室中央に集まる、机の下にもぐる、すぐに外に出ない等)を理解する。</li> <li>○ 防災頭巾等の役割とかぶり方を知り、自分でかぶれるようにする。</li> </ul> <p>◇ 地震や火災等が起きた時に、どのように自分の身を守ったらよいかを様々な想定のもとで避難訓練を実施し、体験を通して学べるようにする。</p> <p>◇ 教師間で連携を図りながら、非常口の確保、人数確認(室内外の残存者の確認も含む)をする。</p>	<p>* 次の教材を幼児の実態に応じて活用する。</p> <p>* ワークシート『ぼうさいダック』カード</p>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p style="text-align: center;">津波防災</p>	<p>● <b>津波が起きたら…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 海や川からできるだけ離れた、高いところに避難することを伝える。</li> <li>○ 間に合わなければ、近くの高い頑丈な建物などの上階へ避難することを伝える。</li> </ul> <p>◇ 海の近くで地震を感じたら、すぐに高いところに逃げることを伝える。</p>	<p>* ワークシート『ぼうさいダック』カード</p>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p style="text-align: center;">風水害</p>	<p>● <b>雨がひどくなると…</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨がひどくなると、「川」「山」「道路」等がどのように変化し、どのような危険があるのかを知る。</li> <li>○ 『安全であれば外に出ない』『危険な場所には近づかない』ことの大切さを知り、守れるようにする。</li> <li>◇ 避難する時は子どもだけで行動せず、教師や家族等、大人と一緒に行動するように伝える。</li> </ul>	<p>* ワークシート『ぼうさいダック』カード</p>

おさない



かけない



しゃべらない



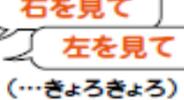
もどらない



活用資料等

・ 日本損害保険協会資料 「ぼうさいダックカード」

## 資料「ぼうさいダック」カード一覧

No.	防災の対象	動物	声	コメント(下段はポーズ)	メッセージ
1	地震	ダック 	ダック! 	じしんのときは… 「ダック」のポーズ *両手を頭に寄せかがみ込む	まず あたまを まもろう。 (じょうぶな つくえの したにもくろう。)
2	津波	チータ 	びゅ〜ん 	つなみのときは… 「チータ」のポーズ *両手を早く振る	できるだけ たかいところまで はしろう。
3	火事	タヌキ 	うっ 	かじのときは… 「タヌキ」のポーズ *両手を口にあてる	ぬれたハンカチを くちにあてよう。 (いつもハンカチをも つようにね。)
4	台風	ウサギ 	しーん  (…黙る)	たいふうのときは… 「ウサギ」のポーズ *両耳に手をあてる	じょうほうを ききましょう。
5	洪水	カエル 	ケロケロ 	こうずいのときは… 「カエル」のポーズ *くつをはくように	しっかりあるけるように じゅんびしよう。
6	雷	カメ 	ゴロゴロ 	かみなりのときは… 「カメ」のポーズ *体を丸めて低くかまえる	からだをまるめてひくく かがもう。 たてもののなかに にげるのが あんぜん。
7	蜂	ソウ 	ゆ〜っくり 	はちをみたら… 「ソウ」のポーズ *両手を広げてゆっくり振る	あわてて うごく とあぶないよ。
8	道路	ネズミ 	右を見て 左を見て (…きよろきよろ) 	みちをわたるときは… 「ネズミ」のポーズ *右左をキョロキョロ	あんぜん かくにん みぎ ひだり もういちど みぎをみて。
9	誘拐	ヒツジ 	わあ〜! 	ゆうかいされそうになったら… 「ヒツジ」のポーズ *大きな声で「助けて!」と 叫ぶ	おおきなこえ!
10	知っている人	イヌ 	こんにちは! 	知っているひとにあったら… 「イヌ」のポーズ *にっこり笑って右手をあげる	げんきに あいさつ!
11	ひったくり	カンガルー 	ダメー! 	ひったくりにあわないように… 「カンガルー」のポーズ *大事な袋をかかえるように しっかりと胸の中に	だいじなものは しっかり かかえて。
12	悪いこと	サル 	ごめんなさい 	わるいことをしたときは… 「サル」のポーズ *頭をさげる	まずは ごめんなさい。

### 1 低学年（1・2年生）の目標

- 学校の施設や通学路の様子などに関心をもち、災害時の危険について理解し、安全な登下校や学校生活が送れるようにする。
- 地震での建物の倒壊、物の落下や転倒、津波の仕組み、風水害の被害などの危険について理解し、災害に応じた行動の仕方を身に付け、安全に避難できるようにする。
- 災害時への備えとして、非常持ち出し品や避難場所等について考え、家族と話し合うなど防災意識を高めるようにする。

### 2 関連する教科等の指導内容

- 【生活科】
- 学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする事。
  - 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする事。
  - 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする事。
- 【体育科】
- 運動遊びに進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすること。
- 【道徳】
- 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする事。
  - 生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。
- 【特別活動】
- 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。(学級活動)
  - 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。(学校行事)

### 3 学習の流れ

事前指導	避難訓練	事後指導
地震、津波、風水害についての簡単な知識と避難行動のしかたを知る。	避難訓練を通して、行動のしかたを体験し、万一の備えについて心がけるようにする。また、体験を家庭学習へつなげることも考えられる。	避難訓練を活用して、日常生活の心構えや非常持ち出し品などの備えなどについてまとめ、意識を高める。

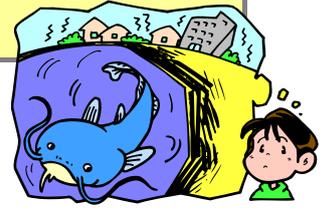
## 4 学習の展開例

### 地震に関する指導の展開例

小学校 低学年用

- 題材 「学校で大地震がおきたらどうするの？」
- 学習のねらい 学校にいるときに起きた地震への対応や避難の仕方などを理解するとともに日常生活における地震への対応について考えることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p>一斉学習</p> 	<p>● <b>なぜ、地しんは起きるのだろう？</b></p> <p>○ 地震が起きるわけや行動のしかたについて理解するとともに、いつ地震が起きるか分からないこと、大きな地震が発生すると思うように動けないこと、地震の後にもいろいろな被害があることなどについて知る。</p> <p>◇ 地震の起こる原理（ばねの原理）やゆれの大きさなどの話から、興味・関心を高めるようにし、学校にいるときに起きる地震への対応を考えさせる。</p>	<p>* 教材1「なぜ、地しんは起こるのかな？」(P46)を活用</p> <p>* 教材2「ゆれの大きさによってつよさを分けています」(P46)を活用</p> <p>「地震と津波」(気象庁)</p> <p>「地震を知ろう」(神奈川県温泉地学研究所)</p>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p>グループ学習</p> <p>☆ワークシートを活用して</p> 	<p>● <b>なにが、あぶないのかな？</b></p> <p>○ 学校にいるときに起きる地震について、場所ごとの行動や約束ごとについて考え、避難の仕方などを知る。</p> <p>◇ 子どもたちが活動することの多い場所を提示し、それぞれの場所の特性や危険について簡単に説明し、地震が起きた場合の行動や避難の仕方について理解をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>板書内容の例</b></p> <p>□ カードで活動場所の提示 ⇒ 場所ごとの危険物等の説明 ⇒ 避難の仕方の確認</p> <p>□ グループごとに話し合う場所の選択 ⇒ 危険物などを調べ、記録 ⇒ 避難経路などをまとめ発表 (グループの役割分担：記録者・発表者など)</p> </div>	<p>* ワークシート「もしものときにそなえて(大地しんのとき)」の1～5の場所を示したカードを用意する。</p> <p>* 場所を示すカードを用意し、子どもたちの実態に応じてグループで分担して調べ学習ができるようにするとよい。</p> <p>* 調べ学習の場合は、模造紙などまとめ用の表を準備しておくとうい。</p>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p>発表活動</p>	<p>● <b>はっぴょうをきいて、はっけんしたことは？</b></p> <p>○ グループ毎に、調べた場所と危険なものについて、まとめたことを簡単に発表する。</p> <p>○ 発表を聞いて、地震発生直後の身の守り方、避難の方法等を具体的に考え、ワークシートの表にまとめる。</p> <p>◇ 確認として数人の児童に、場所ごとの身の守り方とやくそくごとについて発表させ、共有化し、これからの行動に生かせるようにさせる。</p>	<p>* グループの発表を聞く態度について指導する。</p> <p>* 個人学習として、家にいるときについても考えるようにさせ、家庭での過ごし方にもつなげたい。</p>



## ○ 題材 「津波がきたらどうするの？」

- 学習のねらい 津波の起こり方やその力の大きさを理解するとともに、日常生活における津波への対応について考えることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p>一斉学習</p>	<p>● 津波はどんなふうにおこるのかな？</p> <p>○ 津波の起こる仕組みについて、視覚的に理解するとともに、小さな津波でも大きな力を持っていることを体験的に理解する。</p> <p>◇ 津波の起こる仕組みやその高さや被害の大きさなど発達の段階に応じて視覚的に理解しやすい教材を使い、津波の基本的知識を理解させる。また、津波と波の違いについて、先生と児童数名が押し合うことを通して体験的に理解させる。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	<p>* 次の教材を児童の実態に応じて活用する。</p> <p>○ 教材5「津波はどのようにおこるのだろうか？」(P53)</p> <p>○ 教材7「津波の力ってどのくらい？」(P54)</p> <p>○ 教材8「津波と大波(波浪)はどう違うの？」(P54)</p>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● 津波がきたらどうすればいいかな？</p> <p>○ 津波が来たときの場所ごとの行動や約束ごとについて考え、避難の仕方などを知る。</p> <p>◇ 子どもたちの日々の生活を想定し、考えやすい場所を提示し、それぞれの場所の特性や危険について簡単に説明し、津波が来たときの行動や避難の仕方について理解をさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>生活場面の例</b></p> <p><input type="checkbox"/> 家にいるとき   <input type="checkbox"/> 登校や下校のとき   <input type="checkbox"/> スーパーやコンビニエンスストアにいるとき   <input type="checkbox"/> 公園にいるとき など</p> </div>	<p>* 場所を示すカードを用意し、子どもたちの実態に応じてグループで分担して調べ学習ができるようにするとよい。</p> <p>* 調べ学習の場合は、模造紙などまとめ用の表を準備しておくとうよい。</p>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p>発表活動</p> 	<p>● 気付いたことは何ですか？</p> <p>○ グループごとに、調べた場所と危険なものについて、まとめたことを簡単に発表する。</p> <p>○ 発表を聞いて、地震発生直後の身の守り方、津波が来たときの避難の方法等を具体的に考え、ワークシートの表にまとめる。</p> <p>◇ 確認として数人の児童に、場所ごとの身の守り方と約束ごとについて発表させ、共有化し、これからの行動に生かせるようにさせる。</p>	<p>* グループの発表を聞く態度について指導する。</p> <p>* 個人学習として、家にいるときについても考えるようにさせ、家庭での過ごし方にもつなげたい。</p>

- 題材 「雨がひどくないそうなときは？」
- 学習のねらい 雨がひどくなりそうな時の被害を理解するとともに、日常生活における風水害の対応について考えることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例 1&gt;</p> <p>一斉学習</p>	<p>● 雨がひどくなると、どんな危険があるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 雨がひどくなると、「川」「山」「道路」など、どのように変化し、どのような危険があるのか理解する。</li> <li>◇ 「川の氾濫」「土砂崩れ」「道路の冠水」など、雨がひどくなると、どのような危険が起こりうるか考えさせる。</li> <li>◇ それぞれの場所にどのような危険があるのかを考えさせ「いる場所が安全であれば外に出ない」「危険な場所には近づかない」ということを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 次の教材を児童の実態に応じて活用する。</li> <li>○ ワークシート「もしものときにそなえて（大雨のとき）」</li> <li>○ ワークシート 絵カード「こういうときは、どうする？」</li> </ul>
<p>&lt;展開例 2&gt;</p> <p>グループ学習</p> 	<p>● それぞれの場所ごとに、どのように対処するとよいか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 命を守るために、正しい避難の仕方について理解する。</li> <li>◇ それぞれの場所にいることを想定し、特性や危険について、簡単に説明し、どのような行動や避難の仕方があるか理解させる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>場 所</b> → <b>危険の確認</b> → <b>避難の仕方</b></p> <p>川の近くにいるとき 山の近くにいるとき 道を歩いているとき 建物（家、学校）の中にいるとき</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* いる場所を示す絵カードを用意し、子どもの実態に応じてグループで分担して調べ学習ができるようにするとよい。</li> <li>* 避難できない状況になる前に、早めに避難すること。水辺から離れること。近くの建物に避難することなどをおさえる。</li> <li>* 安全な場所にいるときは外に出ない。</li> <li>○ ワークシート「もしものときにそなえて（大雨のとき）」</li> <li>○ ワークシート絵カード「こういうときは、どうする？」</li> </ul>
<p>&lt;展開例 3&gt;</p> <p>発表活動</p> <p>※展開例 1, 2 と組み合わせると良い</p>	<p>● 気付いたことは何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとに、避難の方法を具体的に考えまとめ、発表する。</li> <li>◇ 確認として、数人の児童に、場所ごとに避難の仕方について発表させ、共有化し、これからの行動に生かせるようにする。</li> <li>◇ 正しい安全行動、避難の仕方について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* グループの発表を聞く態度について指導する。</li> <li>* それぞれの場所にいることを想定し、避難の方法についてまとめたものは、掲示するなどして、これからの行動につなげたい。</li> <li>○ 画用紙（まとめ用）</li> </ul>

# もしものときにそなえて

もしもの地しんにそなえて、身のまわりをしらべよう！

まず、学校がっこうにいるとき、「大地しんだいち」がおきたら、あなたはどうしますか？

- 1 教室きょうしつで学習がくしゅうしているとき
- 2 ろうかやかいだんろうかやかいだんにいるとき
- 3 トイレトイレにいるとき
- 4 体育館たいいくかんにいるとき
- 5 運動場うんどうじょうにいるとき

- 地しんちしんは、いつおきるかわ分かりません。みんなで学校がっこうにいるときにおきたら、どうするかはな話し合あって、そのときのやくそくひょうごとを表ひょうにしてみましょう  
(家いえにいるときのぶんもつくといいよ！)

ばしょ	このときどうすればよいでしょうか？	このときのやくそくごとは？
教室 <small>きょうしつ</small> で学習 <small>がくしゅう</small> しているとき		
ろうかやかいだん <small>ろうかやかいだん</small> にいるとき		
トイレ <small>トイレ</small> にいるとき		
体育館 <small>たいいくかん</small> にいるとき		
運動場 <small>うんどうじょう</small> にいるとき		

- かぞくみんなで、はなしあってみようね。



# もしものときにそなえて



おおあめ

大雨がふってきたら、つぎのばしょには、どんなきけんがあるかな？

- 1 かわ 川は、 \_\_\_\_\_
- 2 やま 山は、 \_\_\_\_\_
- 3 みちは、 \_\_\_\_\_
- 4 たてもの 建物は、 \_\_\_\_\_

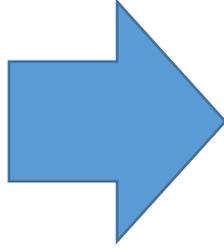
おおあめ

大雨がふってきたら、どうすればよいか話し合おう。

【ばしょ】	【どうすればよいでしょうか？】
<small>かわ</small> 【川のちかくにいるとき】	
<small>やま</small> 【山のちかくにいるとき】	
【みちをあるいているとき】	
<small>たてもの</small> 【建物のちかくにいるとき】	

# こういうときはどうする？

おおあめ  
大雨がふってきた！！！！




やま  
【山のちかくにいるとき】

資料提供 NPO 法人  
土砂災害防止広報センター

おおあめ  
大雨のときはどうなるでしょうか？

ただ ほう  
正しいとおもう方に○をつけましょう

まちのなかではどうなる？

晴れているとき



- ( ) マンホールから水があふれる
- ( ) 地面がじゆんわれる

かわ  
川のちかくではどうなる？

晴れているとき



- ( ) 水のりょうがみずふえて、あふれる
- ( ) ねこがとびだす

やま  
山やがけのちかくではどうなる？

晴れているとき



- ( ) ふんかする
- ( ) くずれる

資料提供  
国土交通省長崎河川国道事務所  
防災教育参考資料データ集

### 1 中学年（3・4年生）の目標

- 地域社会における災害及び事故から人々の安全を守る工夫について関心をもち、災害や事故防止のための日常の取組、緊急事態に対する備え、災害や事故発生時の組織的な対処などについて理解し、安全な行動ができるようにする。
- 地震の起こり方やそれに伴う火災、津波による災害防止、風水害などの危険について理解し、学校周辺や地域の特性を踏まえ災害に応じた避難や行動の仕方を身に付けるようにする。
- 災害時への備えとして、非常持ち出し品や避難場所等について考え、公共の施設や食糧の備蓄倉庫などに目を向けるなど、オリジナル防災マップ作成への手立てとする。

### 2 関連する教科等の指導内容

- 【社会科】
  - 地域の安全を守る働きについて、関係機関が地域の人々と協力して火災や事故などの防止に努めていることを理解すること。
  - 自然災害から人々を守る活動について、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。
- 【理科】
  - 水は高い場所から低い場所へと集まること。
  - 雨水の流れ方やしみ込み方と地面の傾きや土の粒の大きさによって違いがあること。
- 【体育科】
  - 運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすること。
- 【道徳】
  - 自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
  - 生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。
- 【総合的な学習】
  - 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。
- 【特別活動】
  - 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。（学級活動）
  - 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。（学校行事）

### 3 学習の流れ

事前指導	避難訓練	事後指導
地震の起こり方を理解するとともに、地域の特性を踏まえた様々な災害から身を守る行動のしかたを身につける。	避難訓練を通して、組織的な対処や安全な行動のしかたを体験し、日常の生活に生かすことができるようにする。また、家族や地域の一員としての自覚を持てるようにする。	避難訓練を活用して、日常生活の心構えや非常持ち出し品などの備えについてまとめるとともに、公共の施設や備蓄倉庫など、自分の周りにも目を向けることができるようにする。

## 4 学習の展開例

### 地震に関する指導の展開例

小学校 中学年用

- 題材 「学校で大地震がおきたらどうするの？」
- 学習のねらい 地震の起こり方や危険について理解し、日常生活における災害時への心構えや非常持ち出し品などの備えについて考えることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p>一斉学習</p> 	<p>● <b>大地震に備えて、日常的な備えを考えてみよう</b></p> <p>○ 大地震が起きた場合を予想し、どのようなものが必要になるか考え、教材「ふだんから備えておこう」(P20)のチェック欄に記入する。</p> <p>◇ 地震などの自然災害に備えて、どんなものが必要なのかを考えさせたり、避難場所や備蓄倉庫などを確認させたりするとともに、家族で連絡を取り合う方法などをそれぞれ考えるようにさせる。</p> <p>また、「171」の具体的なメッセージを作って発表させる。</p>	<p>* 社会科との関連で調べ方やまとめ方を工夫するよう指導するとよい。</p> <p>* ワークシート「いざというときの備えは？」の「かぞくで、はなしあってみましよう！」を活用する。</p>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p>個人学習</p> 	<p>● <b>家の人と話し合ってみよう!</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発問例</p> <p>いざというときの備えとして、自分の家の中や避難場所など、家族で話し合い、心がけておくことはなんだろう。</p> </div> <p>★ <b>調べる</b></p> <p>○ 自分の家の備えを、家族の人に協力してもらいながら調べてまとめる。</p> <p>また、登下校のときに避難場所や備蓄倉庫について調べておく。</p> <p>★ <b>考える(工夫する)</b></p> <p>◇ 家族会議を開いてもらい、家族みんなの避難場所や連絡方法などについて考えるようにさせる。</p> <p>また、けがをしたときの応急手当についても話し合い、家庭で救急薬品を準備するようにさせたい。</p>	<p>* 教材4「地しんに備えて、どんなことをしておくといいですか？」を活用する。(P47)</p> <p>* ワークシート【日ごろの備え：学校での過ごし方】への記入。</p> <p>* ワークシート【日ごろの備え：家庭での過ごし方】への記入。</p> <p>* 簡単な応急手当の方法について、参考文献等を用意しておくとい。</p>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p>グループ学習</p> 	<p>● <b>どんな物が必要な？すぐにもって出るにはどうするの？</b></p> <p>★ <b>まとめる</b></p> <p>○ 日常の備えについて各自でまとめ、何人かが自分の考えを発表する。</p> <p>◇ 日頃の備えとともに、避難場所や備蓄倉庫など、地域へ意識を向けることで、防災マップづくりや地域の防災活動へ参加していく意欲付けにつなげていきたい。</p>	<p>* まとめとして、発表会を開いてもよい。</p>

- 題材 「もし私たちのまちに津波がきたら？」
- 学習のねらい 地域における津波災害の防止について、見学や調査、資料の活用によって理解するとともに、いろいろな生活の場面ごとに避難方法や避難場所を考えることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p>一斉学習</p> 	<p>● <b>地域の津波災害防止について理解しよう!</b></p> <p>○ 低学年で学習した津波の仕組みや被害の程度を振り返るとともに、社会科で学習したことを再確認する。</p> <p>◇ くり返しの学習を行うことによって、知識の定着を図るとともに、新しい内容への興味関心を高める。</p> <p>＜社会科の指導内容＞（学習指導要領より） 地域社会における災害及び事故の防止について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、人々の安全を守るための関係機関の動きとそこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力を考えるようにする。</p>	<p>* 低学年で使用した教材のいくつかを抜粋して資料として配付する。</p> <p>* 社会科の教科書や資料教材を用意させる。</p> <p>* 社会科の学習との関連が効果的になる時期に実施する。</p>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p>グループ学習</p> 	<p>● <b>地域の地形的特徴と避難場所について知ろう!</b></p> <p>○ 次の手順により学習を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地図をもとに地域の避難場所を探し、白地図に記入する。</li> <li>② 地域の津波ハザードマップ（津波浸水予測図）に基づいて、白地図に浸水部分に色を塗る。</li> <li>③ 生活場面ごとに、避難場所と避難経路の関係についてグループで意見を出し合う。</li> <li>④ グループの意見をまとめ、発表する。</li> <li>⑤ 発表したことを踏まえ、自分の意見をまとめる。</li> </ol> <p>◇ 定着した知識の活用を促すために、白地図やハザードマップなど、活動しやすい資料を工夫し児童が考える環境を整える。</p>	<p>* 教材9「津波はどんなふうにくるの？」を活用する。（P55）</p> <p>* 生活場面ごとにグループを割り振って話し合い活動をさせることも考えられる。</p> <p>* 避難場所が正しいかどうかを確認し、必要に応じて修正させる。</p> <p>* 避難時の行動について考える際に、教材10「津波が来たらどうすればいいの？」を活用する。（P56）</p>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p>発表活動</p>	<p>● <b>調べたことや考えたことを伝えよう!</b></p> <p>○ 調べたことや考えたことを地図やレポートにまとめ、他の学級・学年に伝える。</p> <p>◇ 調べたことや考えたことをより深めるとともに、他者に伝えることによって表現力の育成を図る。</p>	<p>* 紙上発表やポスターセッションなど発表方法を学校の実態に応じて工夫する。</p> <p>* まとめた地図やレポートを家庭にも配付し、家族と話し合うきっかけとする。</p>

- 題材 「 風水害から命を守るために 」
- 学習のねらい 「大雨」「雷」「竜巻」等の自然災害について知り、風水害の発生時に身を守り安全を図る行動ができるようにする。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例 1 &gt;</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">一斉学習</p>	<p><b>●風水害について知ろう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「風水害」とはどんな自然災害があるか、また、その時にどんな対応をしたか考える。</li> <li>○ ワークシート「大気の状態が不安定な時あぶないことは？」に、雷、大雨、竜巻への対処方法として正しいものに○をつける。</li> <li>○ 発表する。</li> <li>◇ 家の中が安全であれば外に出ないことが前提であるということを伝える。</li> <li>◇ 授業で学んだことをもとに、家族と話し合うように働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ワークシート「積乱雲を知ろう」を活用する。</li> <li>* 気象情報、注意報、警報について触れてもよい。</li> </ul>
<p>&lt;展開例 2 &gt;</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">グループ学習</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p><b>●風水害から命を守るために、防災かるたでこの次なにが起きるか考えよう</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 防災かるた「とるとるカード！」(すいがい)を使い、カードを読み上げることで風水害時に何が起きるか、また、命を守るための方法と行動を知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(例4)</p> <p>A「足下が見えない中歩くと」</p> <p>B「マンホールや水路に気づかず」</p> <p>C「落ちてしまうことがあるよ！」</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>そうならないために、家の周りが水に浸かる前に安全な場所に逃げよう</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 風水害時に気をつけること、逃げるための注意事項など気づいたことについて話し合う。</li> <li>◇ 授業で学んだことをもとに、家族と話し合うように働きかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教材 14 国土交通省防災カードゲーム「このつぎなにがおきるかな？」の例②「とるとるカード！」(防災かるた)(P58)を活用する。</li> <li>* 安全な場所にいるときは外に出ない。</li> </ul>
<p>&lt;展開例 3 &gt;</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px;">発表活動</p> <p>※展開例 1, 2 と組み合わせると良い</p>	<p><b>●グループや家族で話し合ったことを発表しよう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登下校中における風水害時に取る行動について、グループで話し合い、ワークシートに記入する。</li> <li>○ 学校外における風水害時に取る行動について、家族と話し合い、ワークシートに記入する。</li> <li>○ 発表する。</li> <li>○ これまでの学習について振り返りを書く。</li> <li>◇ 正しい安全行動、避難の仕方について確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 事前にワークシートを持ち帰り、家庭学習として家族との話し合った内容を先の活動にしてもよい。</li> </ul>

## ● いざというときの備えは？

### ○ 家族で、話しあってみましょう！

災害時に、かぞくのみんなが集まる場所やれんらく方法などを話し合い、メモしておこう！

※ さいがい用でんごんダイヤルの活用 「171」へダイヤルする。  
 <メッセージの例> 「わたしは、“かながわ たろう”です。げんきています。  
 しんせきの“よこはま はな子さん”は、この声をきいたら、かわさきこうみんかんへ来てください。」

※ こういきひなん場所はどこのあるのかな、確かめておこう！

いま、あなたがくらししているところで、大きな「地しん」がおきたら、あなたは自分の身を守ることができますか？

また、「地しん」はどのようにおきるのか、おきたらどのように行動することが一番大事なのか、考えてみたことがありますか？

いま、大地しんがおきたら  
 どのようにすればいいのかな？

学校の外にいるとき、大地しんがおきたら、あなたはどうしますか？

- 1 家にいるとき
- 2 登校や下校のとき
- 3 スーパーやデパートにいるとき
- 4 バスや電車などの、乗り物に乗っているとき

○ 地しんはいつおきるか分かりません。みんなでいろいろな場面をかんがえて、どのように行動をするのがよいか話し合っ、表をつくってみましょう。

いま、どんなところで、なにをしているのかな	まず、しなければならないことは何ですか	地しんがおさまったら、なにをするのかな
家にいるとき		
登校や下校のとき		
スーパーやデパートのいるとき		
バスや電車などの乗り物に乗っているとき		
海の近くにいるとき		
野山や川などにいるとき		



○ 考えよう！ 地しんからおこる<sup>さい</sup>災<sup>がい</sup>害から命を守るためには？

<地しんのあとにおこるもの>

<命を守るための行動は？>

- ・ 海の底で地しんが起これば（                      ）があるかも。 → （                      ）
- ・ 山のしゃ面では（                      ）が起こるかも。 → （                      ）
- ・ 家具の近くにいたら（                      ）くるかも。 → （                      ）
- ・ 台所では（                      ）が起こるかも。 → （                      ）

<命を守るためにはどんなことを心がけますか>

## 【日ごろの備え：学校での過ごし方】

### ＜地しんに備えて＞

私たちは、昼間の大部分を学校で勉強したり、遊んだりしています。地しん発生時には学校で、どのような災害が起こるかな、また、それを防ぐためにはどうしたらよいか、考えてみよう。

[ ] → [ ]

### ＜けがの手当て＞

もしもの時に、私たちにできることは？

## 【日ごろの備え：家庭での過ごし方】

○ 一日のうちで、一番長いのは家庭にいる時間です。家族みんなで、地しんにたいする備えをしておきましょう。

### ＜家族で話し合った内容＞

・連絡のとりかたは？ [ ]

・ひなん場所（集まる場所） [ ]

・持ち物は？ [ ]

### 【災害に備えた品】

非常食・飲料水・衣類・タオル・薬（常備、救急）・懐中電灯・ラジオ

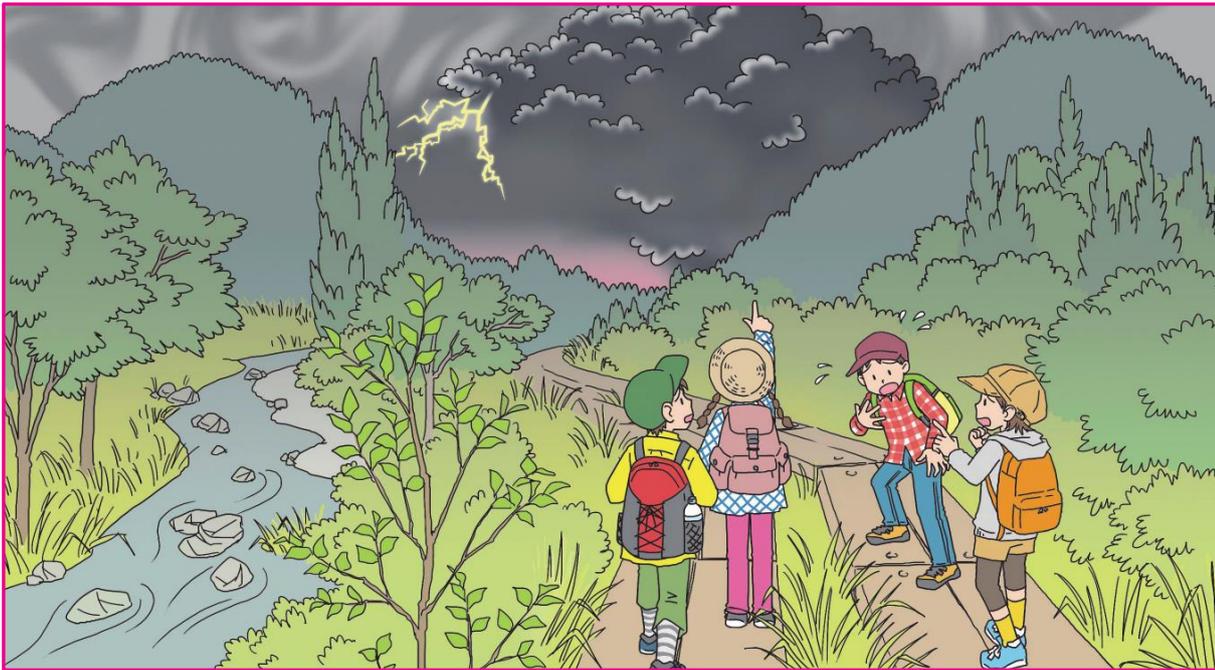
乾電池・雨具・手袋・マスク・現金・ホイッスル・防災マップなど

[ その他必要なものは？ ]

## ワークシート「積乱雲を知ろう」

# 「<sup>たいき</sup>大気<sup>じょうたい</sup>の状態が<sup>ふあんてい</sup>不安定」なとき、あぶないことは？

テレビの天気よほうで、「大気の状態が不安定」といっていましたが、まえから友だちとやくそくしていたハイキングに出かけてしまいました。どんなきけんがあるでしょうか？



ハイキング先で身を守るために、正しいと思う方に○をつけましょう。

■ <sup>かみなり</sup>雷がなっているとき

■ <sup>おおあめ</sup>大雨がふってきたとき

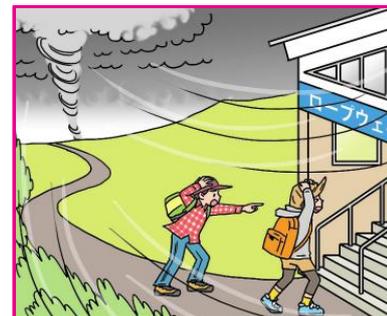
■ <sup>たつまき</sup>竜巻が近づいてきたとき



- ( ) <sup>き</sup>木の下にげる
- ( ) <sup>じどうしゃ</sup>自動車やたてものの中に入る



- ( ) <sup>そと</sup>たてものの外にげる
- ( ) <sup>かわ</sup>川や<sup>ようすいろ</sup>用水路からはなれる



- ( ) <sup>なか</sup>たてもの中のまどぎわにげる
- ( ) <sup>なか</sup>たてもの中のつくえの下にげる

# ふうすいがい いのち 風水害から命を守るために

☆グループで話し合おう

学校の行きかえりはどうすればよいでしょうか

	きけん 危険なところ・危険なこと	いのち 命を守るために気をつけること・考えたこと
おお あめ 大雨		
かみなり 雷		
たつ まき 竜巻		

☆かぞく  
家族で話し合おう

家のまわ  
まわり・よく行く場所ではどうすればよいでしょうか

	きけん 危険なところ・危険なこと	いのち 命を守るために気をつけること・考えたこと
おお あめ 大雨		
かみなり 雷		
たつ まき 竜巻		

☆いのち  
命を守るために、今回の学習で考えたことを書こう

### 1 高学年（5・6年生）の目標

- わが国の国土や県内の地形の様子などについて理解できるようにし、地震や台風、津波、火山噴火などの災害場面における避難行動について知り、安全な行動の仕方について理解を深めるとともに、下級生の安全に気を配ったり、初期消火を行ったり、大人への通報をするなど、二次災害を防ぐ態度や行動がとれるようにする。
- けがの防止について理解するとともに、止血などの簡単な応急手当や家庭での災害への日常の備えとして非常持ち出し品や避難場所等について考えることが理解できるようにする。
- 通学路を中心とした地域における災害時の被害を想定したオリジナル防災マップを作成できるようにする。

### 2 防災教育に関連する教科等及び指導内容

- 【社会科】
  - 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
  - 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。
- 【理科】
  - 天気の変化の仕方について追及する中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮設を基に、解決の方法を発想し、表現すること。
- 【体育科】
  - 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすること。
  - けがの防止について、課題を見付け、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導すること。
- 【家庭科】
  - 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできること。
  - 施設・設備の安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、熱源や用具、機械などの取扱いに注意して事故防止の指導を徹底すること。
- 【道徳】
  - 生命が多く、生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること。
- 【総合的な学習】
  - 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。
- 【特別活動】
  - 現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。（学級活動）
  - 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。（学校行事）

### 3 学習の流れ

事前指導	避難訓練	事後指導
地震などの災害から身を守る行動の仕方を知り、下級生への安全と二次災害を防ぐ行動がとれるようにする。	事前の防災教育や避難訓練を通して、学校や家族・地域の一員としての自覚を持ち、安全な行動の仕方を実践することができる。	避難訓練等の事後指導として、通学路の安全を含めたオリジナル防災マップを作成し、児童自ら災害の危険から回避できる力を養う。

## 4 学習の展開例

### 地震に関する指導の展開例

小学校 高学年用

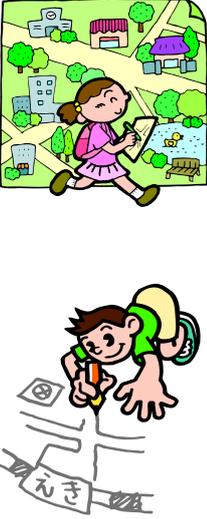
#### ○ 題材 「オリジナル防災マップをつくろう！」

- 学習のねらい 地震の際に起こる危険の要因を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、自分の安全だけでなく、周りの安全にも配慮できるようにする。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p>グループ学</p> <p>または</p> <p>個人学習</p>	<p>● <b>オリジナル防災マップをつくろう！</b></p> <p>◇ <b>板書内容の例</b> 【オリジナル防災マップ作成の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自宅から学校までの通学路を地図上で確認する。</li> <li>・ 建物の倒壊や土砂崩れ、津波などの危険はないか、建物や道路の地図記号の確認をする。</li> <li>・ 危険と思われる場所に、マーカーで印をつける。</li> </ul> <p>1 <b>考える</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既存の地図に、あらかじめ危険箇所と思われる場所をマークする。また、大地震発生時の災害なのか、大地震発生後の災害（二次災害）なのかを予想する。</li> <li>◇ 危険箇所をマークしたら、グループ内で理由を述べるなどして、意見を出し合い、危険箇所ごとの内容を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校周辺の拡大地図があれば、グループ学習で活用する。なければ、個人学習として自宅周辺の既存の地図を準備させる。</li> <li>* 危険物や災害の種類ごとに色分けするよう示すと作業が効率的になる。</li> <li>* いろいろな危険箇所が出された場合でも、否定せず予想しなかったすばらしい考えであることと捉えさせたい。</li> <li>* お互いの意見は、尊重し合う雰囲気作りをする。</li> </ul>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p>個人学習</p>	<p>● <b>自分の通学路を確認しよう</b></p> <p>2 <b>作成する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループで話し合った内容を踏まえ、家から学校までの通学路を中心に、ワークシート『私の通学路は、ここが危険』へ記入する。</li> <li>◇ 自動販売機や電柱等がたおれてくる、物が落ちてくる、塀の倒壊、山崩れ、津波など予想される災害について、区分させたり、色分けさせたりしておく地図上、もしくは文章として記入させやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* ワークシート「オリジナル防災マップをつくろう！」の『私の通学路は、ここが危険』を活用する。</li> <li>* 個人が地図を持っていれば、毎日の通学路をチェックし、危険箇所の色分け作業を宿題等にしておくと効果がある。</li> </ul>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● <b>みんなの考えた危険をグループ内で発表しよう！</b></p> <p>3 <b>発表する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作成したオリジナル防災マップについて発表し、危険を回避する方法などのアイデアや行動等を報告し合う。</li> </ul> <p>4 <b>振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループ内で話し合った内容から、自分の足りなかった場所等の確認をする。</li> <li>○ 訂正する箇所や追加する危険箇所について、書き出す。</li> <li>○ 各グループの記録者により簡単に報告。（共有化）</li> <li>◇ 集団登下校の班があれば、下級生を安全に保護しながら、どのような行動をとったらよいか話し合わせる。</li> </ul> <p>また、自然災害については予想をはるかに超えた被害に遭うこともあるが、落ち着いた正しい行動により被害を最小限に抑えることができること（二次災害への対処）を、児童に理解させ、望ましい行動へとつなげていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 発表はグループの中で行うが、司会・記録・協議時間等を決めておく。</li> <li>* グループで話し合った内容と自分の考えから、各自の通学路における危険箇所を再確認させる。</li> <li>* まとめとして、ワークシートの『私の通学路は、ここが危険』を再確認させ、加除訂正をさせる。</li> <li>* 危険回避は、危険予測と二次災害からの避難行動が大切であることに気付かせ、ワークシート「災害から身を守るために、これから気をつけることは？」に記入させる。</li> </ul>



- 題材 「オリジナル津波防災マップをつくろう！」
- 学習のねらい 児童自ら災害が起きた場合の危険箇所を点検・確認し、津波防災マップを作成することにより、実感をともなったより実践的な災害対応能力を身に付けることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例 1&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● <b>津波ハザードマップや避難場所を確認しよう！</b></p> <p>○ 地震発生時の災害と、地震発生後の津波災害を区別して予想し、危険箇所と思われる場所をマークする。</p> <p>◇ 危険箇所をマークしたら、グループ内で理由を述べるなどして、意見を出し合い、危険箇所ごとの内容を確認させる。また、危険箇所だけではなく、安全な場所、役に立つものもマークさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>マークの種類</b></p> <p><input type="checkbox"/>ブロック塀 <input type="checkbox"/>がけ <input type="checkbox"/>自動販売機 <input type="checkbox"/>看板（落下）  <input type="checkbox"/>ガラスの建物 <input type="checkbox"/>高台 <input type="checkbox"/>公園 <input type="checkbox"/>駐車場 など</p> </div>	<p>* 教材6「津波のスピードってどのくらい？」及び、教材3「津波の力ってどのくらい？」を活用する。(P54)</p> <p>* 学校周辺の拡大地図があれば、グループ学習で活用する。なければ、個人学習として自宅周辺の既存の地図を準備させる。</p> <p>* 危険物や災害の種類ごとに色分けするよう示すと作業が効率的になる。</p>
<p>&lt;展開例 2&gt;</p> <p>グループ学習</p> 	<p>● <b>地域を調べ、マップを作成しよう！</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p><b>1 地域調査を実施する</b></p> <p>① グループ分けと役割分担</p> <p>○ 班長 ○ 記録係 ○ 写真係 など</p> <p>② 事前指導</p> <p>○ 事前学習の振り返り ○ 調査内容の確認</p> <p>○ 交通安全や調査マナーに関する指導 など</p> <p>③ 地域調査</p> <p>○ 地域の人へのインタビューなどによって、より役立つマップになるよう情報を集める。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p><b>2 マップを作成する</b></p> <p>① まち並みを描く</p> <p>○ 道路や海岸線、河川など調査地区の地図を書く。 (白地図の拡大でも可)</p> <p>② 写真を貼る</p> <p>○ 危険な箇所 ○ 安全な場所 ○ 役立つもの</p> <p>③ コメントを書き込む</p> <p>○ 写真とともになぜそうなのか理由を書き込む。</p> </div>	<p>* グループは生活班等の既存のものを活用する。縦割りの活動が可能であれば、登下校班を活用すると効果的である。</p> <p>* 個人が地図を持っていれば、毎日の通学路をチェックし、危険箇所の色分け作業を宿題等としておくと効果がある。</p> <p>* 保護者や地域の協力を求める。また、行政の防災担当部局の協力を得ることも考えられる。</p> <p>* 事前学習のマークをシールにして地図に貼っていくと効率がよい。</p>
<p>&lt;展開例 3&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● <b>作ったマップを発表しよう！</b></p> <p>○ オリジナル津波防災マップについて発表し、危険を回避する方法などのアイデアや行動等を報告し合う。</p> <p>◇ 発表について自己評価・相互評価させることによって、実践を振り返り次の活動に生かす。また、マップを校内に掲示したり、校内放送で紹介したりすることによって学校全体に広げる。</p>	<p>* 保護者や地域の人など協力してくれた人を招くと、地域全体の防災意識の高揚につながる。</p> <p>* 地域防災計画との相違がないよう教師が最終確認をする。</p>

○ 題材 「地域の特性を知り、身を守ろう」

- 学習のねらい 風水害について正しく理解することができる。  
地域の特性を理解し、安全な行動について考えることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例 1&gt;</p> <p>一斉学習</p> 	<p>● 風水害について知ろう</p> <p>○風水害にはどのようなものがあるか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川の氾濫</li> <li>・土砂災害</li> <li>・竜巻、高潮 など</li> </ul> <p>◇写真などの資料を見せる。</p> <p>○風水害を引き起こす要因を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台風</li> <li>・集中豪雨</li> </ul> <p>○台風・豪雨について学ぶ。</p> <p>台風がどのようなしくみで起こるのかを知り、台風からどのようにして身を守るかについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・DVDを視聴する（7分）</li> <li>・すぐに避難したほうがよい場合について考える</li> <li>・ワークシートで振り返る</li> </ul>	<p>*日本赤十字防災教育プログラム DVD A-7</p> <p>* ワークシート 「台風・豪雨を知ろう！」</p>
<p>&lt;展開例 2&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● 地域の特性を知ろう</p> <p>○自分の住んでいる地域や家の近くの特性を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・川はあるか</li> <li>・がけ崩れが起りやすい場所はあるか</li> </ul> <p>○学区の地図を活用し、書き込む。</p> <p>○発表する。</p> <p>○ハザードマップを見て、学校の周辺や自分の家の周辺はどうか確認する。</p> <p>◇書き込んだ地図とハザードマップを見比べて、学校周辺や家の近くについて確認させる。</p>	<p>*できるだけ同じ地区でグループになるようにする。</p> <p>*過去にあった災害について伝えることで、身近な問題として捉える。</p> <p>*「〇〇の家が危ない」という方向にならないように注意する。</p>
<p>&lt;展開例 3&gt;</p> <p>発表活動</p> 	<p>● 台風や豪雨が近づいている時の行動(対処法)について考えよう</p> <p>○DVDを視聴する。(7分)</p> <p>○台風や豪雨が近づいている時の行動(対処法)について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天気予報、気象情報をチェックする</li> <li>・外出をしない</li> <li>・安全な場所ではないときは、早めに避難する</li> <li>・危険な場所には近づかない</li> </ul> <p>○発表する。</p> <p>◇風水害について学んだことを家庭でも話題にするように促す。</p>	<p>*日本赤十字防災教育プログラム DVD A-7</p> <p>*模造紙等準備し、各班のまとめに活用してもよい。</p> <p>*成果物を掲示する。</p>

## ● オリジナル防災マップをつくろう！

- 私たちの住んでいる地域で**災害**が起きた場合、どのような危険があるのだろうか。

〔学習の手順〕

- 1 自宅から、学校までの通学路を確認しよう。
- 2 自宅から学校までの通学路で、危険な場所がありますか。その場所を色分けしましょう。  
(建物からの落下物、ブロック塀のくずれ、土砂くずれ、津波による浸水など)
- 3 危険と思われる場所を出し合い、お互いに確認しましょう。
- 4 地図上に学校周辺の危険をまとめてみよう！  
(各班で1つのマップを作ることができたら、発表してみよう。)

### 『私の通学路は、ここが危険！』

#### 【例】

- 家から〇〇地区の信号を渡った右側のブロック塀<sup>べい</sup>は、危険。  
→ 地震発生直後、ブロック塀がくずれてくるかもしれない、マーク。
- 国道〇〇号線の左側は、山に面している道だ。  
→ 地震発生後、土砂くずれの恐れあり、色をぬろう。
- 国道〇〇号線の右側は、海に面している道だ。  
→ 地震発生後、津波の恐れがあり、色をぬろう。

#### 【災害から身を守るために、これから気をつけることは？】

- 災害に対する学習を通して、気がついたことや心がけることなどを記入しましょう。

## ● 台風・豪雨を知ろう！

天気予報で台風が近づいていることを知ったらどうしたらよい？



国土交通省長崎河川国道事務所  
防災教育参考資料データ集より

予測される危険は何でしょうか？イラストを参考に書き出しましょう。

台風からどのようにして身を守りますか？

指導の展開例

1 中学校の目標

- 地震に伴う土地の変化の様子など、地震発生メカニズムと危険性について理解するとともに、沈着・冷静・迅速に安全な行動がとれるようにする。
- 大地震発生後の被災状況を把握させるとともに、中学生としてできる地域での防災活動や防災訓練等に積極的に参加する意識を高め、自他の生命を尊重する態度を養う。
- 通学路を中心とした地域における地震発生時に起こりやすい危険箇所を気付き、どのような対策を立てればよいかなど防災マップを活用して、具体的な行動化に結びつく力を身に付ける。

2 防災教育に関連する教科等及び指導内容

- 【社会科】
  - 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。
  - 日本の地域的特色を①自然環境に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。
- 【理科】
  - 地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解すること。
- 【保健体育科】
  - 傷害の防止について理解を深めるとともに、応急手当をすること。
- 【技術・家庭科】
  - 家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。
  - 家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。
- 【美術科】
  - 事故防止のために、特に刃物類、塗料、器具などの使い方の指導と保管、活動場所における安全指導などを徹底するものとする。
- 【道徳】
  - 望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け、安全で調和のある生活をする。
  - 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。
  - 自然の崇高さを知り、自然環境を大切にすることの意義を理解し、進んで自然の愛護に努めること。
- 【総合的な学習】
  - 目標を実現するにふさわしい探求課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。
- 【特別活動】
  - 節度ある生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。(学級活動)
  - 心身の健全な発達や健康の保持増進、事件や事故、災害等から身を守る安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するようにすること。(学校行事)

3 学習の流れ

事前指導	避難訓練	事後指導
防災教育並びに避難訓練等の事前指導として、地震や津波等発生メカニズムや危険性について理解するとともに、安全な行動の仕方等について学習する。	避難訓練を通して、家族の一員としての自覚を促すとともに、災害時における安全な行動の仕方や日常の取組から、中学生として何ができるかを考えることができる。	避難訓練等の事後指導として、通学路の安全を含めた防災マップづくりを通して、自分の住んでいる地域へ目を向けるなど、災害時における望ましい行動の在り方について学習する。

## 4 学習の展開例

### 地震に関する指導の展開例

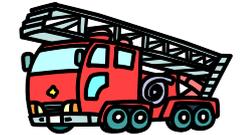
### 中学校用

- 題材 「学校で大地震がおきたらどうするの？」
- 学習のねらい 地震発生メカニズムと危険性について理解するとともに、日常の備えや災害時に自他の安全のために主体的に行動できるようにする。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例1&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p><b>1 今、地震が起きたとしたら、家族とどのように連絡を取るのだろうか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 在校中の大地震発生時に家族は何をしているのかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに意見を出し合う。(クラスの雰囲気によっては、ワークシートに記入させてもよい。)</li> </ul> </li> <li>◇ 非常時の電話連絡については、かなり困難であることを理解させる。</li> </ul> <p><b>2 学校以外で大地震が発生した場合はどうすればよいのだろうか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登下校中、外出中の発生時の動きについて考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険物から身を守る</li> <li>・家族や学校への連絡はどうしたらよいのかを考えさせる。</li> </ul> </li> <li>◇ 被災地では、どのようなことが課題になるのかなど、被災者となった立場で真剣に考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 自分の家族だけでなく、考えられることを出し合うことにより、幅広くとらえることができる。</li> <li>* 居場所やその災害状況を予測しながら話し合いを深めていく。</li> <li>* ワークシート「我が家の防災会議」の例を読み上げ、話し合う内容を確認する。</li> <li>* 県外の親戚に連絡を入れるなどの工夫があることに気付かせる。</li> </ul>
<p>&lt;展開例2&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p><b>3 日ごろの準備品には何があるだろうか？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いざとなったら、何を持って避難するのか考え、ワークシートに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の避難所を知る。</li> <li>・避難のときの非常持ち出しについて考えさせる。</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">↓</p> <p><b>家庭での話し合いや備えについてまとめよう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「我が家の防災会議」の開催をキーワードに、いつ・どのように実施できるか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* グループで話し合い、各自のワークシートに記入する。</li> <li>* グループでの話し合いを基に、家庭へのアプローチを考えさせる。</li> </ul>
<p>&lt;展開例3&gt;</p> <p>個人学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 家族全員で話し合うことが大切であり、役割や家中の安全点検などを実施する意欲をもたせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 家族の一員としての自覚をもち、自分のできることを考えさせる。</li> </ul>
<p>&lt;展開例4&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p><b>4 まわりを見て、あなたにできることは何だろう？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グループごとに、家族で話し合った内容について情報交換を行う。</li> <li>◇ 家族との話し合いができなかった生徒には、自分の考えを述べさせるようにし、全員が参加できる体制づくりを確認する。</li> <li>◇ 本時の学習から、自分ができることについて考えさせ、家庭や地域の一員であることに気付かせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 家庭学習の内容を事前に集めておき、教師が家庭学習の状況把握しておく。</li> <li>* ワークシート「我が家の防災会議」の「私のできること、しなくてはいけないこと」を活用する。</li> </ul>

## ○ 題材 「津波に対する意識を高めよう！」

- 学習のねらい 津波に関する科学的な理解を深め、津波災害時の対応の仕方や日ごろの備えについて考えるとともに、応急手当の技能を身に付け、地域の安全に貢献しようとする態度を身に付けることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例 1&gt;</p> <p>一斉学習</p>	<p>● <b>津波に関する知識を深めよう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 津波の起こる仕組みや津波のスピード、被害の程度、遡上の仕方等について資料により科学的に理解する。</li> <li>○ 習得した知識に基づいて、グループごとあるいは各自で課題を決めて調べ学習を行う。</li> </ul> <p>◇ 生徒の学習経験に応じて教材を選択し、これまでの学習を確実に定着させるとともに、発展的な内容について状況に応じて指導する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p><b>調べ学習の課題例</b></p> <p><input type="checkbox"/>津波の破壊力   <input type="checkbox"/>過去の津波被害   <input type="checkbox"/>地形別の津波遡上  <input type="checkbox"/>生活に役立つハザードマップ   <input type="checkbox"/>地震予測と津波の想定など</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 教材 5～10 を生徒の学習経験や発達の段階に応じて効果的に活用する。(P53～P56)</li> <li>* 地域の防災計画を使って、学校の立地条件に応じた津波防災対策を理解させることも考えられる。</li> <li>* 調べ学習の課題は、教師が提示して選択させても生徒自ら考えて設定してもよい。</li> </ul>
<p>&lt;展開例 2&gt;</p> <p>グループ学習</p>  	<p>● <b>津波の被害と、そのとき何をすべきか考えよう！</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>活動 1 津波で予想される被害とは？</b> (ブレインストーミング)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 東日本大震災の写真を参考にして、予想する津波被害の内容を出し合う。(付箋に書いて模造紙に貼ってもよい)</li> <li>○ 被害内容を分類する。</li> <li>○ 被害を最小限に食い止めるために何をすればよいのかをグループで話し合う。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><b>活動 2 応急手当を身に付けよう！（実習）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 心肺蘇生法の意義や行い方を理解する。</li> <li>○ ダミーを使用して実習を行い、技能を身に付ける。</li> <li>○ 災害時の疾病や傷害の発生に対する行動について話し合う。</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 東日本大震災の被害状況の写真、付箋、模造紙</li> <li>* ブレインストーミングの約束 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 批判をしない</li> <li>② 奔放なアイデアを歓迎する</li> <li>③ 質より量を重視する</li> <li>④ 他のアイデアを修正、改善、発展、結合する</li> </ul> </li> <li>* 教科の保健学習(傷害の防止)との関連を図る。</li> <li>* 地域の消防署と連携し、救急隊員を指導者として招いて講習を行うことも考えられる。</li> </ul>
<p>&lt;展開例 3&gt;</p> <p>グループ学習</p> 	<p>● <b>社会貢献について考えよう！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 災害ボランティアについて理解し、生徒が活動できるボランティアについて意見を出し合う。</li> <li>○ 地域の防災活動を知り、参加の仕方を調べる。</li> </ul> <p>◇ 地域の防災組織、消防署、行政の防災安全部局、自治会や町内会などと連絡調整しながら、生徒が体験的に学べる機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 安全な社会を形成する担い手としての自覚を持たせ、積極的に参加する態度を育てる。</li> <li>* 地域防災計画との相違がないよう教師が最終確認をする。</li> </ul>

○ 題材 「風水害に対する意識を高めよう」

- 学習のねらい 風水害に関する科学的な理解を深め、災害時の対応の仕方や日ごろの備えについて考えるとともに、地域の安全に貢献しようとする態度を身に付けることができる。

学習形態	○学習活動 ・ ◇教師の支援・指導	備 考
<p>&lt;展開例 1&gt;</p> <p>一斉学習</p>	<p>● 大雨や強風に関する知識を深めよう。</p> <p>○ 台風による雨、波、風、土砂災害や竜巻、雷について資料により科学的に理解する。</p> <p>○ 習得した知識に基づいて、グループあるいは各自でそれぞれの課題を決めて調べ学習を行う</p> <p>◇ 生徒の学習経験や地域に応じて教材を選択し、これまでの学習の確立に定義させるとともに、発展的な内容について状況に応じて指導する。</p> <p><b>調べ学習の課題例</b></p> <p><input type="checkbox"/>台風、竜巻の破壊力 <input type="checkbox"/>過去の被害 <input type="checkbox"/>雷発生の対応</p> <p><input type="checkbox"/>土砂災害の種類</p>	<p>* 次の教材を生徒の実態に応じて活用する。</p> <p>・日本赤十字防災教育プログラム DVD A-7</p>
<p>&lt;展開例 2&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● 風水害の被害とそのとき何をすべきか考えよう！</p> <p><b>通学路の防災マップの作成</b></p> <p>①学校周辺地図から基本地図を作成しよう。</p> <p>②災害発生時の状況を確認するための地図を作成しよう。</p> <p>③予想される被害を知るための地図を作成しよう。</p> <p>④自分が通る通学路を確認し、危険と思われる場所を確認しよう。</p> <p>⑤情報を書き込んだ地図から、テーマに沿って協議しよう。</p> <p>◇ 各自治体で作成しているハザードマップを用意する。危険箇所だけでなく、安全な場所等もマークさせる。</p>	<p>①地図の上に透明シートを重ねる。</p> <p>②シートの上から、油性ペン等を使って防災関係情報を書き込む。</p> <p>③透明シートをさらに重ねて書く。</p> <p>④事前に用意した被害想定やハザードマップなどの情報を書き込む。</p>
<p>&lt;展開例 3&gt;</p> <p>グループ学習</p>	<p>● 風水害の被害とそのとき何をすべきか考えよう！</p> <p><b>大雨防災グループワーク</b></p> <p>○大雨に対する知識</p> <p>○グループワークで大雨に対する備えや災害発生時の身の安全について意見を出し合う。</p> <p>◇気象情報や警戒レベルについて理解させる。</p>	<p>・ ワークシート「大雨防災ワークショップ」を使用する。</p>
<p>&lt;展開例 4&gt;</p> <p>発表活動</p>	<p>● 社会貢献について考えよう！</p> <p>○ DVD を視聴し、過去の災害を知り、自分たちに何ができるかを考えよう。</p> <p>○ 避難所で私たちにできることは何かを話し合おう。</p> <p>○ 災害ボランティアについて、自分たちが活動できるボランティアについて意見を出し合いまとめ、発表してみよう。</p>	<p>* 次の教材を児童の実態に応じて活用する。</p> <p>参考資料</p> <p>・日本赤十字防災教育プログラム DVD C-1「災害の経験から未来へ」</p>

活用資料等

- ・ 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」映像教材A-7
- ・ 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのちひろめるぼうさい」映像教材C-1

# 我が家の防災会議

- (1) 家族が、離ればなれになったときに落ち合う場所
- (2) 非常時の連絡方法
- (3) 非常時の持ち出し品（持ち出せる人が）
- (4) 避難場所の確認
- (5) 家の中の安全点検（責任分担）
- (6) 出かけるときの約束
- (7) 非常時に役立つ物
- (8) 災害時に、学校へ子どもを迎えに行く方法
- (9) 家族の役割分担
- (10) 家の近くで、危険な場所の確認

## <家族で話し合った内容>

- ・連絡のとりかたは？ [ ]
- ・落ち合う場所は [ ]
- ・避難場所は [ ]
- ・持ち物は？ [ ]

## 【災害に備えた品】

非常食・飲料水・衣類・タオル・薬（常備、救急）<sup>かいちゅうでんとう</sup>・懐中電灯・ラジオ  
乾電池・雨具・手袋・マスク・現金・ホイッスル・防災マップなど  
その他の備品

[ ]

- 私のできること、しなくてはならないこと。

[ ]

○ 大地震発生後の被災地は、どのような状況でしょうか。

【衣・食・住の状況は】

【学校の状況は】

【けがの状況は】

＜資料＞兵庫県南部地震の概要（気象庁発表）

- ・ 日時：平成7年1月17日5時46分
- ・ 震源の深さ：16Km、 規模：マグニチュード7.3
- ・ 最大震度：震度7 死者：6,433人、行方不明3人、重軽傷43,792人
- ・ 被害の特徴：建築物の倒壊、大規模火災が発生

＜資料＞東北地方太平洋沖地震の概要（気象庁発表）

- ・ 日時：平成23年3月11日14時46分
- ・ 震源の深さ：16Km、 規模：マグニチュード7.3
- ・ 最大震度：震度7 死者：6,433人、行方不明3人、重軽傷43,792人
- ・ 各地で大津波を観測（最大波 相馬9.3m以上、宮古8.5m以上、大船渡8.0m以上）

＜資料＞熊本地震の概要（気象庁発表）

- ・ 日時：①平成28年4月14日21時26分 ②平成28年4月16日1時25分
- ・ 震源の深さ：①11Km、②12km 規模：①マグニチュード6.5、②7.3
- ・ 最大震度：震度7 死者：272人、重軽傷2,734人
- ・ 同一地域において震度7が短期間（28時間内）に2度発生（観測史上初）

○ 中学生としてできることは？

- \* 被災地では、負傷した人の手当てや衣食住の関係、学習の再開等で苦慮しています。

私たちも、地域での防災活動に積極的に参加することが大切です。

＜調べてみよう＞

- ◇ 私の住んでいる地区では、このような防災活動が行われています。

- ◇ 地域の防災訓練等に参加した感想

災害ボランティアで中学生としてできることは？

★ ブレインストーミングで、アイデアを出し合おう！

【ブレインストーミングの4つの原則】

- ①批判をしない
- ②様々なアイデアを歓迎する
- ③質より量を重視する
- ④他のアイデアを修正、改善、発展、結合する

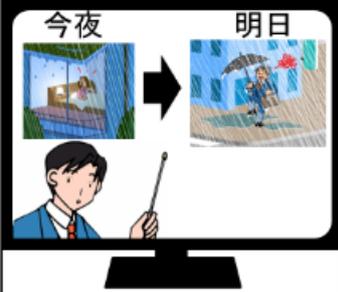
★ グループで出し合ったアイデアをまとめよう！

A large, empty rounded rectangular box with a black border, intended for students to write down and summarize the ideas generated during their brainstorming session.

大雨防災ワークショップ「経験したことの無い大雨 その時どうする？」

① 4日18:00～

※避難場所は開いていません

情報	準備や確認など	なぜ(理由)
4日 夕方 ニュース  		

② 5日5:00～6日13:00

情報	いつ、どのような準備や行動をするのか	なぜ(理由)
5日 5:00 <b>警戒レベル2</b> おおあめちゅういほう こうずいちゅういほう <b>大雨注意報、洪水注意報</b> 低い土地の浸水や河川の増水に注意してください。		
13:30 <b>警戒レベル3</b> おおあめけいほう こうずいけいほう <b>大雨警報、洪水警報</b> 土砂災害、低い土地の浸水や河川の増水に警戒してください。		
14:00 ニュース 1時間に60ミリ以上の非常に激しい雨の降る所があります。低い土地の浸水、土砂災害、河川の急な増水、はんらんなどに厳重に警戒してください。		
14:30 <b>警戒レベル4</b> 土砂災害警戒情報 降り続く大雨のため、警戒対象地域では土砂災害の危険度が高まっています。崖の近くなど土砂災害の発生しやすい地区にお住まいの方は、早めの避難を心がけるとともに、市町から発表される避難勧告などの情報に注意してください。		
17:10 <b>警戒レベル4</b> おおあめとくべつけいほう <b>大雨特別警報</b>		
17:15 臨時ニュース 17時10分に大雨特別警報が発表されました。これまでに経験のないような大雨となっています。今後、さらに広い範囲で大雨が続くおそれがあります。最大限に警戒してください。		